



そよかぜ・7月

令和3年7月12日 箱根町立仙石原幼児学園

夕刻、ヒグラシの鳴き声が箱根の山々に響き渡っていました。もうすぐ暑い夏が来ることを感じました。

子どもたちは、1学期間で大きな成長をしています。お父さん・お母さんが恋しくて泣いていた子どももいつの間にか園に来ることが楽しくなり、今では笑顔で登園しています。興味・関心は異なりますが、こびとがいることを信じ、こびとに会いたい一心で仕掛けをして待っている子ども、虫の観察・飼育や野菜の栽培に毎日心を寄せている子ども、縄跳びやフープ、鉄棒、跳び箱などに挑戦している子ども、友達と誘い合ってドッジボールやものづくりを楽しむ子ども…それぞれが遊びの中で発見したり、試行錯誤して作り上げたり…友達との関わりの中で喜びや楽しさを共感したり、反対に葛藤があったり、様々な感情体験の中で気持ちに折り合いをつけ、次の関わりに繋げている様子が伺えます。



5歳児交流

箱根町全山の5歳児が集まり、小・中学校で一緒になる友達と仲良くなり、コミュニケーション力を養うことを目的に毎年行われています。第一回目は、『教師間交流』の一環として中学校の体育の先生がゲーム遊びや跳び箱を教えて下さいました。4つのグループに分かれて行われ、新しい友達をつくれた子どももたくさんいました。早速、園に帰ってきて、再現している子どもがいました。最後は大人と同じ高さの跳び箱を跳んでくれたり、マットでハンドスプリングを見せてくださったり、中学の先生の指導とテクニックはとても新鮮で感動したようです！あと2回がとても楽しみです。

読み聞かせは心の栄養

お父さんやお母さんの声でお子さんへの読み聞かせをするよりリラックスして集中し、安心感を与えます。親子で本を一緒に読むことでコミュニケーションがとれ、親密感が高まり、子どもは肌のぬくもりや匂いも感じ取り、心が安定します。また、子どもの興味、情緒的発達、想像力、言語能力を刺激し、感情を豊かにし、言葉の表現を知り、国語力がアップします。

4. 5歳児は週に2冊ずつ園図書を借りています。きつつき号も月に二回きます。少しの時間でもよいので保護者の声で読んであげましょう！

納涼大会



オープニング

さくら組のソーランが決まり、もも組の“ジャングルぐるぐる”は、動物になりきってとてもかわいく踊れました。続いて、ゆり組の花火の表現は、きらきらのコスチュームをまとい、“パチパチパチ”“パーーン”全身で表現し、さくら組と一緒にのバルーンでは大型花火があがりました。最後は、親子ダンスを楽しみ、お店開店！



保護者会によるお店屋さん

工夫を凝らした手作りのお店が出店！（ドラえもんパクパク、ポンポン引きくじ、ペットボトルのボウリング、鬼滅の刃の射的、動物の仕掛けのある駄菓子屋さん、ヨーヨー釣り、バザー、さがしてみよう！）

午前中は乳児クラス、午後は幼児クラスが親子で楽しみました。

お化け屋敷大成功！

さくら組は1か月以上かかって作り上げたお化け屋敷がいよいよオープン！「どきどきするう」「お客さんたくさん来るかな」「がんばろうね」「泣いたら大成功だね」などわくわくしながらこの日を待ちわび、お客さんが怖がったり、喜んだりする姿に達成感を覚えました。別日に一年生が来てくれ、嬉しさもマックスに…！子どもたちの意気揚々とした笑顔から、大きな育ちを感じました。幼小交流もできる形で再開していきたいです。

去年は、コロナの影響で納涼大会ができませんでした。今年は、子どもたちの笑顔のためにできることを模索しながら、何回も話し合いを重ね、準備をしていただきました。前例がないことを一から作ることはとても大変なことです。保護者会がリードして、保護者の皆様のご理解・ご協力により、納涼大会が開催できたことに感謝いたします。

1年生にチケットを渡し、後日、来てもらいました。1年生が何度も入ってくれ、年長組はそれが嬉しくて幼小交流の大切さを改めて感じました。



お知らせ

- ◇ 水遊びは、昨年引き続き、コロナ対策としてプール遊びはいたしません。たらいに水をはっての水遊びは、いつも通り行います。一人ずつシャワーを浴び、汗を流す日もありますので、タオルと着替え一式を一つの袋にまとめて入れてきてください。
- ◇ 幼児学園西側（支援センター側）に使用していないオイルタンクがあります。水がたまりポンプで抜いていましたが、根元がさびてしまい倒壊の恐れがあるため、撤去することになりました。天気の良い日に工事をします。安全に気をつけて通ってください。